

2000年代の前半、大林組のトレードを私のブログでほぼリアルタイムで実況中継したことがある。急落する大林組を逆張り建玉で仕込みながら買い下がり、最後のダメ押しの下げも買い、その後の急反発で短期間に大きな利益を上げたトレードだった。

他人のトレードを見るのは「見世物」として割り切ってみるのは良いと思うが、上手なトレーダーのトレードをリアルタイムで見たからといって、それだけでは決してトレードが上手くな

実学の株式投資技術の必要性(11)

フが上達するかどうか、インドでは必要以上に詳細な業界知識や早耳情報はほとんど重要ではないか、むしろ邪魔でさえある。期待値が十分にプラスの自分の「売買ルール」に従って、株価の動きにどう反応して建玉操作するかのみである。

それでは、何が足りないのだろうか。上手なトレーダーがなぜ、そのとき、どのような判断で、その行いを決断し、なぜそれが迷わず実行できたのか、このよくなるスポーツ観戦と同じである。武道が良い例だが、どんなことでも、技能の上達には傍目には決して見えないが極めて重要なことがあると求められる。優れたトレーダーは原理原則を理解し、基本動作と定石を「型」として嫌というほど繰り返す。

知識・情報より「波に乗る」技術



愛知淑徳大学ビジネス学部教授
三矢 幹根

ることではない。タイガーウッズがゴルフのプレーをするのをリアルタイムで見たからといって、自分のゴルフ

みつや・みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リーズ大学経営学大学院・MBA(Finance)。1959年生まれ。

し反復練習している。この基本動作の反復練習のお陰で、瞬時に条件反射的に判断、決断、行動ができる。継続的な地味な努力を惜しまず大多数の個人投資家にはハードルが高いだろう。それに加えて、百戦錬磨の実戦経験を通して、訓練していない人にはない強靱な精神力を持っている。大暴落の時こそ大きなチャンスと見て大歓迎する。大波でも中波でも小波でも変化はチャンスである。トレー

その「相場技術」の核となるのが「売買ルール」であり、売買ルールには以下の要素が不可欠である。

(1) その見方、やり方は理に適っているか、(2) 安い時に買い、高い時に売る、あるいは高い時に売り、安い時に買い戻すやり方になっているか、(3) 仕掛け、手仕舞いのポイントが明確になっているか、(4) すべきことが明確になっているか、(5) その見方、やり方の期待値は十分にプラスで高いか、(6) 再現性は十分高いか、(7) どの地域(東証一部、貸借銘柄、大型株、中型株、小型株、マザーズなど)で戦うのか、(8) どのように戦うのか(建玉法)。